

真島久美子ミニ句集

吉野ヶ里より愛を込めて



はじめに

私は句集を出版したことがないので、これが処女句集になる。小さい頃から川柳をしている為、句数だけは膨大にあり（良し悪しは別として）どこから手をつけていいのか、お手上げ状態だった。いい機会だと思いき句に目を通して見たが、これまた読んでいて恥ずかしいものばかり。よくもまあ、どの面下げてこんな句を作ったのだと呆れてしまった。小学生の頃の句は、素直で可愛いものが多い。中学生と高校生の頃は、剣道の句ばかりだ。それから片思いの句。そこから先が恥ずかしいのだ。あの頃に戻れるならば「ちよつと久美子さん。こんな句を作りよつたら将来大恥かくばい！」と教えてあげたい。

佐賀県では、年に数回「葉隠研究」という本が出版される。これは佐賀の歴史を学ぶのにもってこいの内容で、県内の本屋さんに置いてある。そのこの川柳コーナーを担当させてもらっているのだが、四か月に一度くらいなので、その時に自分の川柳ノートを整理するようにしている。そしてその中から、自分の好きな句を五句選んで掲載している。年間にすれば十五句ほどではあるが、それが一年間のうちで私が最も好きだった自分の句だ。今回のミニ句集は、その中から選ぶことにした。私の独断と偏見で選んだもので申し訳ない気持ちだが、皆さんに読んでいただけるとありがたい。

真島久美子



真島久美子（ましまくみこ）

佐賀県神埼郡吉野ヶ里町大24262

昭和48年10月5日生（てんびん座）

A型（だけど大雑把）

柳歴

両親の影響で4歳より川柳を作り始める

番傘川柳本社同人

川柳葦群同人

川柳港 同人

川柳塔社誌友

平成24年7月 卑弥呼の里川柳会立ち上げ

十指しかななくて心が掴めない

通り雨嘘が滲んだだけのこと

アンテナの形で人を乞うている

核心にせまる醜く溶けながら

生きてゆくつもり鉛筆噛みながら

心臓と書いてハートと読む月夜

鉦山も私もゆっくりと錆びる

泣き虫が全部奪ってゆくのです

地平線父にも父がいたように

シャーベット状の言葉で眠れない

言い訳の一つに雪を抱いている

負け犬になれるアナタはかっこいい



予防接種のような恋なら済みました

生ぬるい雨生ぬるい胸に降る

折り紙の白が迷ってばかりいる

ライオンになろうなろうと痩せてゆく

どれくらい憎いか聞いてくる雨だ

アスファルトなんか私咲かないわ

取り外し可能と書いてある背中

形あるものが怖くて裏返す

飛び跳ねる劣等感のその上で

私には無い迷路から出る勇氣

仲間だと思いう裸足でサンダルで

触れた手が心になってゆくのです

酸性になるまで泣いてみるつもり

母さんがくれた100ワットの言葉

線になる点をいくつも持った母

淋しいと書けば重たい紙になる

試着室鏡の奥にある樹海

冷えた指以下同文の中の冬

藁を編む素手も素足も藁にして

黒だけが残る絵の具の中の海

異次元のバスは私を置いて行く

月までの距離で私を光らせる



指差した先に等身大の虹

縮んだらスタンドバイミーを流す

輪の中で吠えたい喉を持って余す

清潔な指で潰しなさい私

スキップをしたらピカソの絵になった

口笛でゆっくり消えてゆく火種

クエスチヨンマークの下にある酸素

目の前で散っているのは自尊心

直線が生まれるここじゃない何処か

飯粒が六法全書から零れ

向こう岸ばかりに届く桃である

追伸は人間臭いことを書く

夕陽つてこんなに小さかったかな

軽々と言葉を越えてくる涙

飛べそうな肩甲骨にある記憶

一輪が跳ねて野の花らしくなる

真島久美子ミニ句集

吉野ヶ里より愛を込めて

発行人 真島久美子

編集所 川柳塔社 WEB サイト

<http://senryutou.net>